

香川大学教育学部

附属坂出学園だより



～ 地域に必要とされる学校園をめざして～

第70号

2022.11



新型コロナウイルス感染症下の学校生活も3年目を迎えましたが、本年度の本学園の各学校の教育・研究活動は、いつも変わらぬ子供たちの日々成長していく姿に励まされ、保護者や地域の皆様の御理解に支えられ、先の2年間の経験を踏まえた教職員の様々な工夫によって、新たな進展を生み出しつつあります。今後も本学園全体として十分な感染症対策を行いながら、教育・研究活動の一層の充実と発展に向けて日々努力していく所存です。よろしくお願いたします。

香川大学教育学部附属坂出中学校 校長 笠 潤平

全附P連 創立70周年記念 令和4年9



祝 文部科学大臣PTA活動振興功労者表彰

松韻会会長の宮本昌尚さんが、9月30日（金）に東京で行われた全国国立大学附属学校PTA連合会創立70周年記念式典において文部科学大臣表彰を受けました。宮本さんは5年余りという長きにわたって松韻会会長を務め、その間OYGおやじの会の活動、さかいで大橋まつり総踊りへの参加、各校園での新入生向けイベントなどで保護者同士の絆づくりに努められました。また、子供の見守り活動や土曜メンテナンスを充実させ、安全や環境面をよくする取り組みにも尽力されました。そして、全附P連絵画コンクール2021を成功に導き、全附P連では幼稚園特別支援委員会副委員長、総務委員会委員長を歴任しています。

このような榮譽ある賞をいただけるのは、宮本さんの多大なご貢献によるものですが、附属坂出学園の保護者の皆様、役員の皆様のご協力やご支援があつてのことと思います。宮本さんが表彰を受けることを、共に喜びたいと思います。

令和4年8月6日（土）に開催された第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会において、松韻会幼稚園部 河野康子 副会長が、「みんなで育てるこどもの力『自分でTryふぞくっ子』～一人ひとりの個性を活かして～」というテーマで発表されました。その中で松韻会について、幼・小・中の3校園が一体となったPTA組織であり、各校園の行事に触れたり合同行事に参加したりし、子供たちの成長を見守っていること、保護者の「絆」が学校を支える原動力となるという考えに立ち、活動していることをお話しくださしました。また、保護者と教職員との連携による全員参加のPTA活動の取組（夕涼み会、土曜メンテナンス、絵本の読み聞かせ、ウェンディーの会など）や附属坂出学園役員間の連携・協力（合同運動会など）、地域との連携（さかいで大橋まつり、餅つき大会など）について、その詳細を紹介するとともに、子供と保護者の学びの場、子供の成長を喜び合える場になっているという成果もお話しくださしました。

こうした日頃の取組は、優秀なPTAの実績であると認められ、松韻会幼稚園部が令和4年度「優良PTA文部科学大臣表彰」被表彰団体に選ばれました。今後も附属坂出学園の保護者と教職員が一丸となって、子供たちの成長を支えられる組織づくりを進めていきたいと思つています。



<めざす子供の姿を大切に>

自主・自律	共生・協働	探究・創造
-------	-------	-------

とんぼのめがねっておもしろい

【年少児】

秋晴れのある日、園庭で赤とんぼが飛んでいるのを見つけた、追いかけたときから「とんぼのめがね」を楽しんで歌っている年少児。歌いながら、「とんぼさん、青いお空を飛んだから、めがねが水色になったんだあ」と言ったAくん。めがねの色が、周りの様子によって変わることに関心をもったのかなと思い、早速、透明フィルムでとんぼのめがねを作り、保育室に置いておくことにしました。

翌日、そのとんぼを手に、いろいろな場所でめがねの色が変わることを楽しみ始めた子供たち。そのうち、今度は自分のとんぼを作りたい気持ちが膨らみ、早速作ると今度はお外でも飛ばしてみたくなり、外へ繰り出して行きました。



めがねの色が変わるね!



とんぼだよ

さらに翌日には「めがねに穴あけたいの」と言うBちゃん。どうするのか見守っていると、自分のめがねにし始めました。とんぼを飛ばして遊んでいるうちに、今度は自分もとんぼに変身したくなったようです。「羽根も付けよ」と、羽根に好きな色を塗り、「背中に貼って」とリクエスト。羽根を付けると、それはそれはうれしそうに、幼稚園中を飛び回っているかわいいとんぼさんたちでした。

友達とイメージを形づくる

【年中児】

ごっこ遊びが大好きな子供たち。年少児の頃から保育室のぬいぐるみをかわいがり、日差しの強い時には日よけ帽子を被らせて園庭へ出かけ、運動会シーズンにはスズランテープで作ったポンポンを持たせて一緒に踊る等、自分たちの思いや生活と重ね合わせながら、共に園生活を楽しんでいます。

お母さん（あるいはお姉ちゃん）になりきって、ぬいぐるみグッズをどんどん作る子供たち。髪飾りや洋服等、最初はそれぞれが作りたいものを表現していましたが、最近はお風呂やベッド等、少し大きなものを友達と一緒に作る姿が見られます。「牛乳パックをつなげよう」「お布団は水色がいいね」「○○ちゃん、ここ持って」「ありがとう」と声を掛け合い、イメージを共有しながら作っていると、あっという間に1時間経過。夢中になって遊ぶ楽しさや友達と心を通わせていく心地よさを、これからも大切にしたいです。



ベッドを作ろう!



みんなでやすみ

種から育てる喜びを感じて

【年長児】

5月中旬、子供たちと一緒に、花壇にひまわりの種まきをしました。ポットで小さな芽が出てから畑に植え替え、1学期が終わるまで毎日水やりをしたり、草抜きをしたりして日に日に大きく生長していくひまわりをみんなで見守っていました。昨年度、年中組では、空豆を育てたときに、開花から収穫までの喜びを味わいました。その経験から、生長過程や様子についても関心が高まっているように思います。大輪ひまわりなので、あっという間に茎が伸びて、子供たちの身長を超える茎もありました。そんなひまわりと背比べをして、楽しんでいる子供たちの姿がとてもかわいらしく、植物の生長とともに自分たちの成長を子供たち同士で喜んでいるように感じました。



大きくなあ〜れ!

夏の間、2メートルを超える茎の上に大輪の花を咲かせた年長児のひまわり。夏休み明け、ひまわりの花は枯れていたのですが、毎日のぞき込んで、種ができるのを心待ちにしている様子でした。「まだかなあ〜」と触ってみると、ぱらぱらと種が落ちてきました。なんと枯れた花の奥にぎゅーと詰まった種を発見。子供たちはうれしくて、そこから種取りが始まりました。ぎゅーぎゅーと詰まった種は数え切れない程です。袋に入れたり、カップに入れたりして「何個あるんだろう〜?」「100個はありそうだね」と、どんどん取れる種を見つめては収穫の喜びを感じていました。そこには、興味をもった年少児や年中児もやってきて、いつの間にかたくさん集まって種取りを楽しんでいました。同じひまわりでも茶色い種と黒い種が取れるのです。タブレットで調べてみると、黒い種は発芽しにくいことが分かりました。「へえ〜! 不思議だね〜」と子供にとっても保育者にとっても新しい発見でした。こんなふうには、種から育て、開花したあとにも楽しめるひまわりに驚きと楽しさを味わいました。



種がぎゅー!

1年 スタートカリキュラム

入学したばかりの子供たちの緊張や不安を和らげようと、登校後に新しい友達や教員と仲良くなる時間（仲良しタイム）を設けました。まずは、自分たちのしたい遊びができるように、活動場所を体育館と教室に分けて、好きな遊びを選べるようにしました。教室では折り紙やお絵描きをしたり、絵本を読んだりして過ごし、体育館ではけん玉や竹ぼうき、お手玉、ブロックなどを楽しむ姿が見られました。これまでの経験を生かして自分の好きな遊びができることで安心感が生まれ、新しい友達にも自然に声を掛け、友達の輪が広がったように感じました。



仲良しタイム

そして、教員には自分の名札を見せて、自己紹介をしてサインをもらう「先生と仲良し大作戦」にも取り組みました。初めは緊張した表情でしたが、全員の教員にサインをもらいたいと、積極的に教員と交流する姿が見られました。また、仲良しタイムの後は、教室ではおはなしママーさんに絵本の読み聞かせをお願いしました。それにより、落ち着いて一日を始める習慣ができたように感じました。



先生と仲良し大作戦



絵本の読み聞かせ

さらに、附属幼稚園の年長児である青組さんとの交流を行いました。体育の授業で一緒にシャトルランをしたり、音楽の授業で小学校の校歌を歌ったりしました。ふだん、高学年の人から助けをもらうことが多い1年生ですが、お兄さんお姉さんとして成長している姿を見ることができました。



青組さんとの交流

これらのスタートカリキュラムの取組を通して、新しい環境に慣れ、新しい人間関係をつくり、小学校生活をスムーズにスタートできたように思います。

3年 未来学習「大好き坂出」

3年生は、身近な坂出市のことをもっと知りたいと考え、未来学習（総合的な学習の時間）に取り組んでいます。

1学期は、遠足で坂出市役所を見学し、市役所の役割や坂出市の良さについて教えていただきました。そこで生まれた「もっと坂出市の良さについて知りたい」という思いを基に、観光、自然、建物、歴史の四つのグループに分かれて坂出市について調べました。調べて分かったことを東組と西組でグループごとに分かれて発表し、瀬戸大橋の歴史や白峰の天狗伝説などについても学ぶことができました。2学期からは、さらに詳しく坂出市について知るために、1学期に調べた施設を見学に行ったり、施設の職員の方に小学校に来ていただき、坂出市の特産品について教えていただいたりする予定です。附小フェスタでは、分かったことをまとめ、お家の人に紹介することにも挑戦したいと考えています。自信をもって発表できるように、見通しをもって準備を進めています。



発表の様子

3学期は坂出市の良さについてさらに多くの人に知ってもらう活動を行ったり、お世話になった施設の方々へ感謝の気持ちを伝えたりする予定です。

4年 未来学習

「特別支援学校の友達と仲良くなるプロジェクト」

4年生は、附属特別支援学校の友達との交流学习を行いました。例年行っている活動ではありますが、コロナ禍のために、合同運動会ができていないなど、附属校の関係が希薄になっていくことから子供たちは附属特別支援学校の友達と仲良くなりたいという思いを高めていました。

本年度は、オンラインでの交流会を3回行い、画面越しでありながらも互いに楽しい時間を過ごすことができました。各交流会の後に、附属特別支援学校の先生方から交流会での特別支援学校の子供たちの様子を教えていただき、交流について振り返る時間を確保しました。振り返りを生かし、特別支援学校の友達とより楽しめる方法や形態を考え、次がよりよい交流になるように改善していきました。



オンラインでの交流

準備を進めていく際には、相手の気質を意識しながら、喜んでもらえる工夫を一生懸命考え、準備を進めていきました。その過程においては、グループでの話し合いがうまくいかず、悩む様子もありましたが、折り合いを付けて話し合う大切さや一緒に活動する友達の存在のありがたさに気付く様子が見られました。自分から課題に取り組み、なかまを力合わせて解決していくことで達成感を感じられるすてきな経験ができました。今後は、この経験をさらに多様な人との関わりに生かしていきます。

共創型探究学習 CAN2022

各学年1～2名ずつから構成される異学年小集団（クラスター）で、探究課題を設定し、調査や実験をしながら、その課題に迫っていきます。

個人目標の設定

CANのゴールは探究が成功することではなく、あくまで人としての成長です。最初のガイダンスでそのことを伝えた上で、各個人でCANを通してどう成長したいかを「個人目標」として設定します。各学年には、師匠、弟子、見習いとしての役割があり、それぞれに求められる力は異なります。

各学年に求められる力の例

- (1年) 役割を見つけ、自分なりの考えをもって活動できる
- (2年) 自分の意見をまとめ、相手に伝えることができる
- (3年) メンバー全員が活動や話し合いに参加できるよう、コミュニケーションをとることができる

中間評価

夏休み前最後のCANの時間に、上記の例も含めて、CANを通して身につけてほしい力を例示し、その力がどれくらい身につけているのかを4段階で自己評価しました。夏休みまでの取組からの反省・振り返りを、探究活動の残り（9月）と、まとめおよび発表会（10月、11月）に生かしてほしいと考えています。

相互評価・レポート・CAN物語

CANを通してどのような力が身についたのかは、上記のような数値的な評価だけで捉えることは難しいです。そのため、CANの日などには相互評価を行って、同じクラスターの生徒からの視点で、評価をさせたり、CANの日のレポートの中に、同じクラスターの生徒から学んだことを書かせたりすることで、より多面的な視点から、生徒の姿・成長を捉えていきたいと考えています。11月の発表会後には、1年間を振り返るとともに、「CAN物語」を書きます。1年間の探究の過程をまとめるだけでなく、それを通して、自分がどう成長したか、CANは自分にとってどんな価値があったのかなど、自分にしか書けない「ものがたり」となります。CAN2022を通して、一人一人の生徒にどのようなものがたりが紡がれるのかが楽しみです。

<めざす子供の姿を大切に>

自主・自律

共生・協働

探究・創造

日常生活での自立

集団生活での自立

社会生活での自立

姿勢・身体の動きの取り組み

本校の児童生徒には、姿勢が正しくとれなかったり、身体の動きがぎこちなかったりする子供たちがたくさんいます。本校では、大学の先生に協力していただき、様々なアセスメントを行い、児童生徒の実態把握に努めてきました。そのアセスメントの結果から、各学部でテーマを決め、児童生徒一人一人の個人目標を設定し、関連する学習内容に各学部で取り組んでいます。外部専門家として作業療法士と連携し、定期的にアドバイスをいただきながら実践を積み重ねています。各学部での取り組みを紹介します。

小学部

小学部のテーマは、「姿勢・バランス」です。体育では、姿勢・バランスに関わる足腰の筋力やバランス、ボディイメージといった力が養えるように作成したサーキット運動を週2回行っています。児童それぞれが個別

に課題を行うチャレンジタイムでは、課題の中の一つに、それぞれの姿勢・バランスの目標に即した課題を設定して取り組んでいます。これらの活動を検討・改善しながら繰り返していく中で、生活の中の姿勢やバランスに関する課題の改善につなげたいと考えています。



サーキット運動



チャレンジタイム

中学部

中学部のテーマは「バランス・協調運動」です。ソフトボール投げを指標に、様々な動きを経験しながら効率的な身体の動きを身に付けていくことを目標としています。朝の体育では、グループに分かれて、バランスや筋力の向上を図るために様々な運動に取り組んでいます。体育Bグループでは、片足バランス、ランジ、上肢のひねりなどの運動に取り組んでいます。体育Aグループでは、ラダーやメディシンボール、スクーターボードなどを用いて、サーキット運動に取り組んでいます。繰り返し活動することで、筋力を高めつつ、投球に必要な動きを身に付けていけることをめざしています。

に課題を行うチャレンジタイムでは、課題の中の一つに、それぞれの姿勢・バランスの目標に即した課題を設定して取り組んでいます。これらの活動を検討・改善しながら繰り返していく中で、生活の中の姿勢やバランスに関する課題の改善につなげたいと考えています。



筋力トレーニング



サーキット運動

高等部

高等部のテーマは「協調運動」です。ラジオ体操の指導を通して、将来働くために必要な協調運動の改善をめざしています。ラジオ体操は、体育の授業や集中作業前の準備運動として行うだけでなく、長期休み中の宿題として設定することで継続して取り組めるようにしました。また、長期休み中の登校日にもラジオ体操を行い、休み中の実施状況の確認をしました。体操の前には、動きのポイントを確認することで、正しい体の動かし方を意識できるようにしています。ラジオ体操は、一般的に広く知られており、卒業後も職場や家庭で取り組むことで、運動不足の解消や協調運動の改善につなげたいと考えています。



ラジオ体操

語り合いの時間

令和元年度から続けている「語り合いの時間」では、答えのない問いに対して、生徒も教師も一緒になって全員で考え、語り、問い合うことを通して、自らの考えを深めていくことをめざしています。昨年度から、1グループあたりの人数を少なくし、一人が想いを語る時間をより多く設定しました。テーマ：「魅力的な人ってどんな人？」

- ・僕ははじめ、「自分がないものを持っている人」だと思っていましたが、Iさんの「生きる力を持っている人」という意見を聞いて、とても納得しました。
- ・私は魅力的な人と聞いて、一番に思い浮かんだのは、「何かに全力で打ち込んでいる人」でした。部活や勉強を一生懸命頑張っている人や好きなことを楽しんでいる人は魅力的だと思いました。…いろいろな意見があったけど、どの人にもとても共感できました。
- ・自分は「話しやすい人」だと思う。人によって魅力は違うと思うが、今回の語り合いで、全体的に「情熱のある人」のことだと思った。みんなのポジティブ思考がいいなと思った。



輪になって想いを語り合う様子

Ⅲ. 2年間のCANで培ったこと
探究していかなくて2年生までには探究する意味がわからなかったと感じている。例えば「アンケート調査」は2年生のときは調査結果の整理や集約の作業が重く、これは何となく「アンケート」としてみんなが受け入れている。クラスで話し合い、意見をまとめることが、探究の醍醐味だ。今年7月に「探究」をテーマにした探究発表会があった。自分たちが探究した内容を、他のクラスや先生に発表する。自分たちが探究した内容を、他のクラスや先生に発表する。自分たちが探究した内容を、他のクラスや先生に発表する。

「CAN物語」

「わたし」が変わる「ものがたり」の学び

－ 語り合い、探究する中で、「自己に引きつけた語り」を生み出すカリキュラムの提案 －

「教科を学ぶ意味や価値を実感し、生涯にわたって学び続ける生徒を育てる。」

本校では一貫してこの問いを追究し続けてきました。今期は、生徒たちが夢中になって課題を追究する姿、自己に引きつけて語り合っている姿など、教科の学びに対して生徒が「ものがたり」を生み出すためには、どのような教師の「しかけ」が有効なのかについて協議を重ね、研究を進めてきました。

6月10日（金）に予定されていた令和4年度附属坂出中学校教育研究発表会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、残念ながらオンラインによる動画配信に変更することとなりました。しかし、授業動画の公開期間では、県内外の幼・小・中・高・大学および教育関係機関などから、延べ1300回を超える視聴者数を記録し、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。また、生徒たちが自ら主体的に学び、語り合う姿にも高い評価をいただきました。これも本校生徒一人一人の頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご協力があったことと深く感謝しております。そして、今大会の成果と課題を踏まえ、今後も本校の研究実践を全国に発信していきたいと思っています。

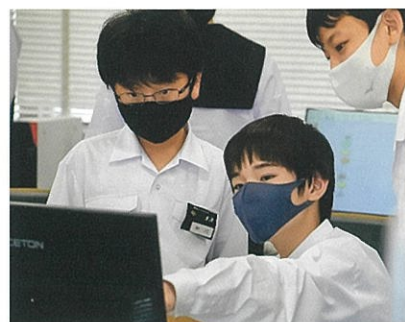
公開授業（教科）



家庭科



国語科



技術科



数学科



美術科



外国語科



理科



音楽科



保健体育科

幼稚園

一人一人が輝いて

9月14、15、16日の3日間、各クラスごとに運動会を行いました。短い練習期間ではありましたが、毎日、友達や保育者、実習生と一緒に、走ったり跳ったりすることを楽しみ、運動会への期待を膨らませていました。

年少児は、お家の人を前にちょっぴりドキドキ。一番うれしそうだったのは、ゴールにいるお家の人めがけて走るかけっこです。満面の笑顔で腕の中に飛び込み、ぎゅっと抱きしめられて幸せそうでした。

年中児は、ポンポンを手に歌いながら跳ったり、かけっこで転んでもすぐ立ち上がり最後まで走り抜いたり、他にもいろいろなかわいい姿とたくましい姿が見られました。

幼稚園で一番大きな年長児は、自分の名前を書いた自作のプラカードを手に、胸を張って入場！選手宣誓や司会進行の大役も立派に果たしました。ダンスも保育者が踊らなくてももしっかり覚えて、目線もタイミングもバッチリ。障害物かけっこも、少し難しいことに挑戦する楽しさを感じていました。

運動会を通して、一人一人が輝き、また一つ大きくなった子供たちです。



年少児

年中児

年長児

中学校

勇往邁進（ゆうおうまいしん）

9月24日（土）に、テーマ“勇往邁進－目標に向かってわきめもふらず勇ましく前進！”のもと、中学校単独での運動会を行いました。例年より準備期間が短い中、生徒会やマスゲームプロジェクトの生徒たちを中心に、自分たちで自分たちの運動会を成功させようと、試行錯誤しながら努力を積み重ねてきた成果を存分に発揮することができました。特に、午後からの各学年団の創作ダンス（マスゲーム）では、1年生「我夢謝楽（がむしゃら）」、2年生「一意奮闘（いちいふんとう）」、3年生「獅子奮迅（ししふんじん）」の各テーマを掲げ、演技を披露しました。中学校最後の運動会ですべてを出し切った3年生の集大成の演技は、観客の心に響くものとなりました。



3年生創作ダンス「獅子奮迅」より

小学校

成長・挑戦・絆を表現

今年は、小学校単独で中学校の運動場を借りての開催となりました。まだまだ暑い日が続いていましたが、感染症対策と熱中症対策の両方を十分に行いながら練習時間を確保しました。また、低・中・高学年で互いの演技を見合う場を設けて、運動会への意識を高めていきました。

運動会当日は、自分たちの『成長』した姿を見せることができた低学年、全力で『挑戦』する姿を届けることができた中学年、なかまとの固い『絆』で結ばれたことを表現した高学年の子供たちに対し、保護者の皆様から大きな拍手のプレゼントが贈られました。演技を終えた子供たちは、どの子もすてきな笑顔で輝かせ、達成感に満ちあふれていました。



低学年

中学年



高学年

特別支援学校

エンジョイプレイ！

5月15日（日）に初夏の陽気の中、春季運動会が開催されました。

小学部のダンス「みんなでおどろう」はカラフルなフラッグを持って、スーパーマリオと一緒に楽しく踊ることができました。中学部の競技「はさんで運んで ほいさっさ」は、二人で棒を持ち、ボールを挟み、ゴールまで運びました。平均台などの障害物を通るときには、二人で声を掛け合いながらゴールまで運ぶことができました。高等部の競技「ストラックアウト in FUZOKU」では、的に向かってソフトボールを投げたり、サッカーボールを蹴ったりしてパネルを抜く、ストラックアウトをしました。全部のパネルが抜けると、それぞれのチームが協力して作ったアートが現れました。チーム対抗競技では赤・青・白の3チームに分かれ、綱引きやポッチャ、リレーで競い合いました。どの競技も白熱した戦いが繰り広げられ、今年は白チームが優勝しました。半日という短い時間でしたが、みんなが笑顔で、最後まで楽しく頑張った運動会でした。



小学部

中学部

高等部

心の支援部の取組

学校保健安全委員会

「子供の“気持ち”を考えよう」～感情心理学の視点～

～幼・小・中学校の縦と横のつながいを大切に～

学校保健安全委員会は、主に学校園における幼児・児童・生徒の健康課題を取り上げ、改善策について協議し、日々の健康づくりの推進を目的に開催しています。本年度も、幼稚園・小学校・中学校が一緒に学校保健安全委員会を立ち上げ、前期は小学校が中心となり、7月1日（金）にオンラインにて開催しました。スクールカウンセラーの入江輝先生からは「子どもの感情コントロール力を育てる関わり方」、長谷川幸子先生からは「感情とコミュニケーション」と題してお話をいただきました。スクールソーシャルワーカーの藤澤茜先生からは幼・小・中それぞれの心の支援部の取組等をご紹介いただきました。

～感情が育つためにできること～

気持ちや感情って、何だと思いませんか。「気持ちに寄り添う」とは、いったいどういうことを指すのでしょうか。学校保健安全委員会では、「気持ち」を感情心理学の視点から理解し、子供たちの気持ちを大切にしたいコミュニケーションのポイントについて学びました。また、実際に子供たちに行ったアンケート結果を用いて、子供たちの気持ちの現状についても知る事ができました。

子供の中に生じる「ポジティブ感情（快）」も「ネガティブ感情（不快）」も、まるごと受け止め、適切な言葉を返すことによって、子供の中に生じる感情と言葉が結び付いていきます。子供の感情にラベルを付けたり、受け止めたり、慰めたりというサポート的な応答を、安定した信頼関係のある大人と行うことで、子供たちの感情が育ち、コントロールする力につながっていきます。

<保護者の方の感想>

- 子育てに自信をもって取り組みそうです。まずは母親の私自身がポジティブ感情をもって、子供のネガティブ感情を丸ごと受け止めたいと思います。
- ポジティブな感情を子供から聞くとうれしいですが、やはりネガティブな言葉には「ハッ」としてしまいます。そうした親の心の揺れに、子供は気付くと思いますし、話しにくくさせているのかなと思います。「まるごと受け止める」を、いつも気を付けてやってみようと思います。
- 成長と共に感情を出すことが少なくなってきました。手を離し、でも目を離さず、見守ります。



「心の支援部」

*スクールカウンセラー(SC)4名

入江 長谷川 谷淵 橋本






*スクールソーシャルワーカー(SSW)1名

藤澤



～各校園における心の支援の取組～

幼稚園

入江SC、藤澤SSWには、保育を参観するだけではなく、子供と共に遊びの世界に入ってもらうことで、子供たちが遊びを通して育っていく様子を一緒に感じ、よさを発見してもらっています。遊びの中で一人一人の子供との間に信頼関係を作り出し、その子の考えや思いを大切にしながら支えてくださっています。そして子供たちの様子を見てもらった後は、月に1回程度、職員と話す場を設けることで、保育者とは違った視点から子供理解や保育の環境作りへの助言をいただき、保育がより豊かになるようサポートしてくださっています。

また、子供への関わり方や自分の子育てについて悩みや不安を感じている保護者に対して、その思いを十分に受け止めながら、共に子供の成長を支えていけるような援助を担ってくださっています。

今後も、職員、SC、SSWが協働し、保護者の皆様と一緒に子供へのよりよい支援について考え、取り組んでいきたいと思っています。



一緒に絵本を聞こう

小学校

今年度は、学級担任、養護教諭、SCに加えて、坂井校長も授業者として参加しました。

5年生の授業でのテーマは、『自分に合わないと感じる人とのつきあい方』と『私たちが生きていくためには』です。坂井校長は、日頃から、放送朝礼などを通じて「苦手な人と無理につきあう必要はありません。でも、排除はだめです。」という話をしています。『自分に合わないと感じる人とのつきあい方』では、自分の長所を生かし、どんなつきあい方があるかを、個々に考えました。『私たちが生きていくためには』では、人間が減りず生きてこれた理由、そして、今後も人間が減りず生きていくために何ができるかについて話し合う中で、「共生」について考えていきました。

大人でも難しい課題に、子供たちは真剣に取り組み、自分事として捉えていました。



授業をする坂井校長



SCと養護教諭による授業

中学校

中学校では、SCやSSWに相談活動だけでなく、校内巡回や情報共有の場への参加などをしていただいています。

校内巡回は授業中、休み時間問わず行うことで普段の様子を見ていただいたり、事前に配慮の必要な生徒を伝えておき、その生徒を重点的に見ていただいたりします。校内巡回中はSCやSSWの方から声を掛けることがありますが、最近は子供たちの方から「SCの人だ」と声を掛けてくることもあります。このような小さなコミュニケーションの積み重ねによって、子供たちにとってSCやSSWがより身近な存在になっています。日頃から何気ない話ができる関係を築くことで、話を聞いてほしい時に本音を言いやすい環境ができています。

また、情報共有の場として月1回教育相談委員会を開いています。教育相談委員会には、管理職、学年主任、学級担任、養護教諭、SC、SSWなど様々な立場の職員が参加します。そして生徒を1名取り上げ、参加者全員でどのような対応が生徒にとって一番か話し合っています。様々な立場の人が参加することにより、それぞれの視点からの困り感や解決方法が出て、より現実的で実践しやすい案を出すことができます。

SCやSSWが生徒、保護者、職員にとってより身近な存在になれるよう今後も活動を続けていきます。

特別支援学校

本校にSCが配置され3年目になりました。保護者や職員だけでなく生徒たちの相談にも応じてくれる心強い存在です。

最近、高等部の生徒たちからSCと話がしたいと言ってくるが増えました。高等部の生徒は、毎年1回、必ずSCと面接をしています。生徒たちにSCのことを知ってもらうために、この取組を始めました。面接では、まず自己紹介をして、自分の伝えたいことが伝わるように、イラストや写真を使いながらやり取りをしていきます。教員や保護者以外の大人と自分のことを話す経験は初めての生徒がほとんどですが、面接を重ねるごとに自分の思いに寄り添ってくれるSCの存在を身近に感じているようです。

この面接を通して体験した、教員や保護者以外にも頼れる存在があること、自分の考えや思いを伝えるということは、生徒たちの卒業後の社会生活の中で生きていく力になると思っています。



支援ツールを使いながらの面接

松韻会

エコ販売

4月18日(月)、松韻会・後援会総会終了後、小学校体育館にて制服等のリサイクル販売を行いました。従来より販売会場を広げ、利用者の皆様にも購入した商品の袋詰めなどにご協力いただいたおかげで、混雑なくゆったりとご利用していただけたようです。売上金は120,600円でした。この売上金はすべて子供たちのために使われています。制服のご提供や購入をしてくださった保護者の皆様、ありがとうございました。



ウェルカムカフェ

4月18日(月)、新中学校1年生保護者の交流・情報交換の場として「松韻会・ウェルカムカフェ」が3年ぶりにリアル開催されました。新1年生の半数以上の保護者の方々にお集まりいただき、短い時間ながら各班とも会話の花が咲き、ご参加いただいた先生方への質疑応答や情報交換で交流がさらに深まりました。



合同メンテナンス

9月10日(土)、中学校にて土曜メンテナンスを実施しました。50名ほどの保護者と先生方が、ロータリー付近の草刈り、池の周りの中庭の清掃を行いました。3年ぶりに全学年の保護者が観覧できた運動会を気持ちよく迎えることができました。

親和会

運動部体操教室「ZoomでレッツたいそうⅡ」

今年度も夏休み中の7月30日(土)に親和会運動部行事として、オンライン体操教室を行いました。昨年度、「夏休みにどこにも行けないからかわいそう」「運動不足になりそう」という保護者の不安に対し、「少しでも楽しめる活動ができないか」という役員からの意見と、一昨年度から親和会代表者会(役員会)をリモートで行ってきた経験がうまくマッチして始まった行事です。現在、本校小学部棟が改修工事のため「やまもの家」のプレイルームに、「たけのこ体操教室」の安部たけのり先生を昨年度に引き続き講師としてお迎えしました。昨年度より少しレベルアップした内容を含みながらも、安部先生のすてきな笑顔と親しみやすいトークにのせられ、画面を通して参加者の笑顔とともに真剣な表情が伝わってきた、あっという間の1時間となりました。来年度はぜひ対面で、体操教室ができるような状況になっていることを、皆様と一緒に願いたいと思います。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いします。



編集後記

まだまだ新型コロナウイルス感染症に振り回される日々が続き、制限のある生活も長くなってきていますが、今夏開催された甲子園大会で優勝した仙台育英高校の須江監督が優勝インタビューで口にした「青春って密」という言葉。この言葉にハッとさせられました。私たち以上に子供たちにとっての学校生活は大切な日々の連続です。子供たちが「充実していた」「楽しかった」と思えるような学校生活を送れるように、創意工夫しながら取り組んでいきたいと思えます。

発行年月日：2022年11月吉日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園